

- [香川大会へのお誘い](#)
- [第7回研究大会・香川大会のご案内\(第1報\)](#)
- [自由研究発表の募集](#)
- [部会\(地区\)活動等の報告](#)
 - [関東・甲信越部会](#)
 - [北海道部会](#)
 - [東海・北陸部会](#)
- [2011年度の事業報告\(案\)と収支報告\(案\)](#)

第7回 香川大会へのお誘い 島影俊英(四国学院大学(大会実行委員長))

東日本大震災から1年が経ちました。復興に向けて汗を流す被災地の方々の報道に触れる度、私になにができるかを考えます。被災地に行くのも一つですが、今、目の前にある仕事に誠実に取り組むこと、それが被災地支援につながると思っています。私たちSSWが、今できることはなにか。その問いに向き合いながら香川大会の開催に取り組みたいと思います。

本大会のテーマは、「子どもと生活とソーシャルワーク」という3つのキーワードを、実践という文脈の中から省察し定義しなおそうとする試みです。子どもとは何か、子どもを取り巻く生活環境とは何であるのか、そして、私たちSSWはこの両者をどのようにとらえ関わるのか。会員内外の皆さまとの活発な意見交換と対話の中で、多くの気づきを共有し理解を深めたいと願っています。

「癒しの国」四国の玄関口香川は、うどん県とも呼ばれる「恐るべき讃岐うどん」の本場です。善通寺は弘法大師空海の生誕の地、あの金毘羅さんは隣町です。ホスピタリティあふれる「お接待」でお迎えするべく、鋭意準備を進めています。全国のSSWが一堂に会し、こころ触れ合う大会となるよう皆さまのお越しをお待ち申し上げます。

第7回研究大会 香川大会のご案内

大会テーマ

子どもと生活とソーシャルワーク

会場

[四国学院大学\(香川県善通寺市文京町3-2-1\)](#)

日時

第1日目

時間	内容
9:30	大会事前企画研修会受付
10:00-12:00	基礎研修「リソースを生かした支援の展開を学ぶ」(当日申し込み可) 専門研修「アセスメント力を高める事例検討」(定員30名、申し込み順) ※事前企画の詳細や申し込み方法については、次回「大会要項」または当サイト(4月中旬以降)をご参照ください。
12:00	大会受付
13:00-13:30	開会式
13:30-15:00	【基調講演】「子どもと生活とソーシャルワーク～教育と福祉(貧困)のリンクに焦点を当てて～」 講師:山野則子氏(大阪府立大学)
15:10-16:40	【シンポジウム】「子どもと生活とソーシャルワーク」 <ul style="list-style-type: none">[シンポジスト]<ul style="list-style-type: none">山本文子氏(NPO法人 いのちの応援者理事長)岡田倫代氏(香川県立観音寺第一高等学校定時制課程 教諭)木村真紀氏(東かがわ市教育支援センター スクールソーシャルワーカー)[司会]<ul style="list-style-type: none">島影俊英氏(四国学院大学)
16:50-17:20	年次総会
18:30	懇親会(オクラホテル丸亀)

第2日目

9:30-12:00	自由研究発表分科会(自由研究の発表者募集中)
13:00-15:00	課題研究分科会(以下は仮題です) <ul style="list-style-type: none">第1分科会「スクールソーシャルワーカーのスーパービジョンについて」第2分科会「問題行動にかかわるためのアセスメント(見立て)の工夫」第3分科会「大学におけるキャンパスソーシャルワーカーの業務内容とその意味」第4分科会「東日本大震災後のスクールソーシャルワーカー福島からの報告」

大会参加費

- 大会事前企画:
 - 基礎研修:1,000円(当日申し込み可)
 - 専門研修:1,000円(定員40名先着順)
- 会員・一般:
 - 事前:3,000円
 - 当日:4,000円
- 院生会員:
 - 事前:2,000円
 - 当日:3,000円
- 1日目シンポのみ:
 - 一般:1,000円(当日)
 - 学部学生:500円(当日)
- 弁当(お茶付き):1,000円(事前申し込みのみ)
- 懇親会費:5,000円
- 大学駐車料金:1日1回300円

*追って、大会申し込み専用の銀行振込先をご案内します。

締め切り

- 大会事前申し込み締め切り:2012年6月16日(土曜)
- 大会抄録・参加券、宿泊申し込みなどの発送予定(フジトラベルより):2012年6月末日

※宿泊に関して※

オークラホテル丸亀での懇親会及び、ホテルから大会会場までのバスでの送迎を大会当日は予定しています。

ぜひみなさまにオークラホテル丸亀に泊まっていただき、懇親会としてその後の宿泊で、SSWrの集いや若手院生・学生の集いなど、横のつながりをつくる機会にと思っております。

第7回大会香川大会での「自由研究発表」の募集

2012年7月7、8日に香川県にて行われる第7回研究大会における、自由研究発表を募集します。

締め切り

2012年5月7日(月曜)

送付先

〒765-8505 香川県善通寺市文京区3-2-1
四国学院大学社会福祉学部 片岡信之研究室(日本学校ソーシャルワーク学会第7回大会運営委員)
TEL:0877-62-2111(内線:358)
E-mail:nkataoka@sg-u.ac.jp

申し込み要項

自由研究発表を申し込まれる方(当該年度会費納入済みであること)は、下記の要領にしたがって発表原稿を作成のうえ、上記大会事務局に添付ファイルにて、5月7日(月曜)までにお送りください。

1.発表原稿作成上のお願ひ

- 自由研究発表は未発表のものであること。
- 発表原稿は学術的文献として公表されます。内容を十分に吟味したうえで、原則として、研究の目的、方法、結果、考察、結論等の各項に分けて記述してください。この形式で作成されていない発表原稿については、発表をお断りする場合があります。
- 自由研究発表を申し込まれた後、発表のキャンセルをされないように留意願ひします。

2.発表原稿の作成要領について

- 原稿用紙について:発表内容は、A4版2ページで作成すること。字数は目安として、本文3,358字(23字×146行)です。本文とは別に、文頭6行を題目・発表者氏名・所属機関・キーワードを書くスペースに当ててください。具体的な記載の方法は、学会ホームページ「発表原稿の書式」をご覧ください。なお、連名発表者がいる場合は、筆頭発表者氏名の前に○印を付けてください。また、本文の最後に発表者氏名をローマ字にて記載してください。
- 図・表について:図と表は最小限に留め、写真は使用しないようにしてください。
- 事例等の記載について:個人情報等の秘密保持義務など、要旨並びに口頭発表や発表資料での基本的な倫理規程を遵守ください。その旨を発表要旨本文中に明記してください。

3.原稿の送付について

発表原稿のワードプロセッサは、ワードまたは一郎郎のいずれでも結構です。ただし、PDFファイルでは送付しないでください。

なお、「発表原稿」と合わせて、「自由研究発表申し込み用紙」(A4版1枚:作成様式は自由、1.研究題目、2.発表申込者氏名・所属機関、3.電話番号・メールアドレス、4.発表時のパワーポイント使用の有無、を記載。)を送付してください。

部会(地区)活動等の報告

関東・甲信越部会報告

シンポジウム「先進自治体の取り組みから何を学ぶか～富山県と神奈川県の取り組みを通して～」
関東・甲信越部会世話人 水島正浩(東京福祉大学・元神奈川県教育委員会SSWr)

2012年3月22日(木曜)13:00～17:00におきまして目白大学(新宿キャンパス)にて、日本学校ソーシャルワーク学会(関東甲信越地区)及び目白大学大学院生涯福祉研究科の共催という形で開催されました。今回のシンポジウムは、今日の厳しい社会状況・財政状況の中で、「スクールソーシャルワーカー活用事業」から撤退したり、配置を縮小したりする自治体があるなか、積極的な配置に結び付けることが可能となっている富山県と神奈川県のスクールソーシャル

ワーク-活用事業の展開過程と実践を通して、活用事業の今後のあり方について、共に考えていくということを中心コンセプトに開催されました(コーディネーター:理事 大崎先生、学会挨拶:理事 岩田先生司会:理事 高良先生)。参加者は講師等も含め約30名でした。年度末で平日の開催ということもあり、人数的には若干少ない面もありましたが、教育委員会の指導主事や大学教員、学生、スクールソーシャルワーカーなど幅広い職種の方々の参加がありました。

基調講演

講師として村上満会員(富山国際大学子ども育成学部講師)をお迎えし、「富山県は何故スクールソーシャルワーカーの活用が進んだのか～富山型スタンダードの行方と今後の展開～」と題しました基調講演をいただきました。富山県では、平成20年度、4市2町1村(配置率46.7%)、21名の配置からスタートし、平成22年度には2市の単独配置自治体を含め、10市4町1村(配置率100%)、30名のスクールソーシャルワーカーが活用されるまでに至っているとのことでしたが、いかにそのような配置の拡大に結び付けていかれたのかということについて、「1.ソーシャルワークを教育現場にどう効果的に伝えるか」「2.富山県の強みを生かした取り組み」「3.現状から見える課題と今後の展望」という視点から、大変緻密かつ情熱的にご講演をいただきました。

すべてにおいて私たちが学ぶべき大切な視点や考え方でございましたが、特に私が興味深かったのは、2.の視点での、富山県がいかに効果的にSSWer活用事業を展開してきたのかについてPEST分析を用いてなされた3年間の効果と評価の検証に関するお話でした。そこでは、1.政治的要因(SSWer活用事業に対する県の姿勢と市町村とのシステムづくり・職能団体等と各自治体が連携していくためのシステムづくり)、2.経済的要因(行政によるSSWer活用事業予算の継続確保・SSWerの身分保障と職業的価値)、3.社会的要因(ソーシャルワークによる解決を必要とする問題の増加・社会的要請にもとづくSSWerという新たな人材育成)、4.技術的要因(学校教育現場が求めるソーシャルワーカー独自の視点と相談援助技術・求められる富山スタンダードな現行教育体制)として4つの要因が挙げられていました。

なかでも特に先生が強調されていたのは、4.にある“富山スタンダードな現行教育体制”ではなかったかと思いません。富山県社会福祉士会子ども家庭支援委員会による研修や精神保健福祉士協会スクールソーシャルワーカー委員会での情報交換、学校カウンセリング指導員等との共同プログラムの開発・実施、教育と福祉の協働による相談支援の確立を目指して近年取り組まれている「富山スタンダード・スクールソーシャルワーク実践研修」など、様々な形で行われてきた、SSWer同志および関係者との連携強化や地域密着型の県独自の研修体制の整備などについてのお話がありました。

この度のご報告にありましたこの「富山スタンダード」は、今後私たちが目指すべき貴重なモデルケースではないかと強く感じました。こうした多角的で重層的な取り組みが、今日の富山県のSSWer事業の成果や配置拡大につながってきたということが実感できる大変有意義なご講演でございました。

シンポジウム

シンポジストとして、基調講演をいただきました村上満先生に引き続きご登壇いただき、神奈川県教育委員会より鳥海佳奈枝氏(神奈川県SSW スーパーバイザー)、横井葉子氏(神奈川県スクールソーシャルワーカー)、芦田正博氏(神奈川県スクールソーシャルワーカー)をお迎えし、「先進自治体の取り組みから何を学ぶか～富山県と神奈川県の取り組みを通して～」と題したシンポジウムが開催されました。コーディネーターを理事の大崎広行先生(目白大学大学院生涯福祉研究科・高崎市SSW スーパーバイザー)が務められました。

まず、鳥海佳奈枝氏からこれまでの活用事業全体の概況やスクールソーシャルワーカー活用ガイドラインの作成の意義や経緯などについてご報告がありました。神奈川県では、平成21年度より各教育事務所に1名ずつ年間40日の配置でSSW活用事業が開始されましたが、平成23年度には年間70日(配置型35日+巡回型35日)に拡大されるとともに、支援役としてのスクールソーシャルワーク・サポーター事業も導入されるなど、成果を着実に配置の継続や拡大に繋がられてきていますが、そうした背景には、地道な広報・周知活動や実践の積み重ねがあったことが、現場の生の声として迫力をもって伝わってきました。鳥海氏からのお話の中では特に、スクールソーシャルワーカー活用ガイドライン作成の過程において、いかに教育関係者にスクールソーシャルワーカーを理解して協力する意識を高めてもらえるかということに腐心されたかが窺えました。“スクールソーシャルワークのプロセス”や“窓口となる教育相談コーディネーター等担当教員の役割”“支援の具体例”などの項目に詳細かつ分かりやすい説明の工夫がなされており、今後他の自治体がこうしたものの作成に取り組む際にも大変参考になるものではないかと感じました。

続いて横井葉子氏、芦田正博氏より、神奈川県における実践の成果と課題として、各々が担当されてきた3年間での各教育事務所・担当地域での活動の状況や対応されてきた中での事例についてのご報告がありました。それぞれ「障がい・経済的課題・転校といった課題を抱える児童の例(横井氏)」、「虐待・自殺企図・認知症高齢者の介護を抱える生徒の例(芦田氏)」でしたが、それらを通してお二人が強調されていたのが、これまで対応してきたケースの多くが生じたいわゆる“困難ケース(解決の困難ないくつもの課題を抱えている・支援者が接近することが困難・支援の効果をあげにくいといった特徴を持つ)”であったということであり、だからこそ挙げられた成果があるということでした。特に強調されていたのが、これまでその困難さゆえ対応が滞りがちであったケースにSSWerが関わっていくことで、子どもや保護者の具体的な変化だけでなく、“教員の意識の変化”や“学校のアドバンテージを引き出していくこと”につながったのではないかとということでした。それぞれのお話の中に、その内容もさることながら実践者としての誇りや気概を強く感じました。これまで困難な状況の中でいかに良質な実践を積み重ねてこられたかということがとても強く伝わってくる貴重なお話を聴く機会となったと思います。

その後フロアからも、スーパービジョン体制に関する質問や勤務時間外での業務へのかかわり方に関する質問、定着率に関する質問などが寄せられ、幅広い視点での情報交換・活発な議論が行われた後、閉会となりました。実績を着実に積み上げられ、それらを様々な形でアピールされながら配置の拡大、体制の整備、認知度の向上等を実現されている両県の熱心な取り組みをお聞きし、私も一実践者、教育・研究者として、感慨深く、また頭の下がる思いで拝聴させていただきました。そして改めて学会としても、関係者や実践者などに対するバックアップ体制を整えるとともに、実践されている方々の貴重な経験や成果を、介入の効果や配置の有効性として、そのエビデンスをしっかりと蓄積し、提示していけるようにしていかなければならないという思いを強くしました。

最後に、このような貴重な学びを得ることのできる会に携わる機会をいただきました学会理事・世話人の諸先生方をはじめ、関係者の皆様方に厚く御礼を申し上げます。

北海道部会報告 第4回北海道スクールソーシャルワーク研究会報告 北海道部会・世話人 久能由弥(北星学園大学)

去る3月24日(土)に「第4回北海道スクールソーシャルワーク研究会」を開催した。この会は、出席条件がスクールソーシャルワーカー、日本スクールソーシャルワーク学会員、スクールソーシャルワーク研究会の出席経験者、メーリングリスト登録者、SSW実習先、という現場志向のややクローズドの会となっている。そのため、出席者については、毎回出席くださる方々、初めて出席くださる方々、いろいろであるが、これらメンバーがただ座っているという形態ではなく、積極的な参加が求められる会でもある。

さて、今回の研究会では、インフルエンザの流行や突発的な事情により、出席できないメンバーもいたが、結果的には出席者は14名となった。そのうちの約半数が初めて来られる方々であった。昨年度は200km以上離れた地域からの出席もあったが、今回は札幌近郊からの参加が中心となった。この冬の北海道は、大雪が雪害と認定され自衛隊が出勤するような事態になっており、雪が原因で死亡者も30名以上出ている状況でもある。そうした状況が影響しているのか、はたまた研究会までは足が伸びないのか、遠方からの出席者は多くはなかった。

研究会の内容は、学会世話人との協議により前半を事例研究、後半は実践報告を計画した。前半の事例研究では、報告者より1時間程度の時間を使って詳細に事例の内容と報告者の困り感を報告してもらい、それを全体で議論した。報告内容が纏まっていたこともあり、加えて、報告者の実践より学ぶことも多く、全体での議論は、相互に有意義なものとなった。また、江別市の報告については、江別市がスクールソーシャルワーカー活用事業を開始して半年余りであるということから、江別市の取り組みやワーカーとして仕事をする上での難しさについて報告があった。

夜の懇親会は大半が出席した。「あの場」では語れなかった何かを語りながら交流を深めた。あの場で第5回の予定を考える予定であったが、それどころではない盛り上がりだったように思う。

東海・北陸部会報告 「2011年度スクールソーシャルワーク研修」報告 東海北陸地区・世話人 早川真理

去る3月10日、日本福祉大学名古屋キャンパス南501教室にて、「2011年度スクールソーシャルワーク研修」を開催しました。この研修は、愛知県社会福祉士会の有志で立ち上げた「愛知県スクールソーシャルワーカー養成準備会」のメンバーが中心となり、東海北陸地区研修と位置づけし、学会理事の山本敏郎氏の協力を得て、開催しました。

参加者は49名でした。その半数が社会福祉士で、ほとんどの方が所属を記載していませんでしたが、記載のあった所属は病院、刑務所、母子通園施設、児童相談所、青少年相談センター、NPOなどでした。社会福祉士以外では教育委員会、学校関係者が10名でした。行政職員、名古屋市近郊の市議会議員の参加もあり、愛知県でもスクールソーシャルワーカーへの関心が高まってきていると実感しました。

研修は、最初に山本敏郎氏より「教育はSSWに何を期待しているか」について述べていただき、続いて山本隆三氏より「愛知県教育委員会と名古屋市教育委員会の動向」について報告していただきました。次に、今回の研修の中心テーマである「東日本大震災後、福島のス쿨ソーシャルワーカーは何をしてきたのか～5重苦のなかで学校防災を考える～」を鈴木庸裕氏に、「スクールソーシャルワーカーの校内体制支援～私の活動実践から～」を佐々木千里氏に講演していただきました。講演後、福島状況や実際に困っている事例など活発な質疑応答がなされました。

研修後実施したアンケート(回収数:40)の自由記述には次のような感想、意見がありました(原文どおり)。

- 学校の二面性など、教育については学んできていないので、教育の現状や教育から求められる福祉についてすべてよかったです。
- 教育と福祉の目的が一致しているという感覚はなかったのが、驚きと感動の気持ちです。
- 鈴木先生のお話とても興味深く聴きました。非常時、社会の中の脆弱なところを容赦なく突いてくる。そういう意味において社会のメンバー(保護者、教員、隣人など)が日常的に確かなつながりを持っていること、信頼関係が構築されていることが子どもの最善の利益になると理解しました。
- 福島の鈴木さんのお話は非常に心を揺さぶられるものでありました。目の前の状況に何が起きるのか、何かがおこれば逆に、日頃の実践が問われるのだらうと思います。
- 学校に地域包括センターを作る案はとても良いと思います。
- 問題行動をとってしまうその子が問題なのではなくて、そう背景にあるものに問題があるのではないかと考えられるようにならなくてはならないと思いました。
- スクールソーシャルワークとは何をやっているのか全くわからなくて、それが知りたくての参加だったので、佐々木先生の話とDVDでわかりました。
- 佐々木さんのお話は「学校の持てる力を発揮して学校の役割をはたしてもらおう」ということでとても同感が持てました。

アンケートの「今後、機会があれば、スクールソーシャルワーカーとして働いてみたいですか」という問いに対しては、19名の方が思うと答え、思わないは1名(年齢的に)でした。この心強い結果を得て、スクールソーシャルワーカーを仕事にしたいと考えている方々と共に、愛知県でのスクールソーシャルワーカー配置にむけて、研鑽を積んでいこうと気持ちを新たにしました。

2011年度の事業報告と収支報告(案)

大会関係

1. 第6回大会(大会テーマ「学校づくりにおけるスクールソーシャルワーカーの役割」)(大会長・鈴木庸裕、大会事務局長・門田光司会員)の開催を九州沖縄部会会員の協力を得て、西南学院大学で開催。基礎研修の開催。240名の参加。
2. 第7回大会(四国学院大学)での開催準備

■ 研究・活動推進関係

1. 国内動向調査―「全国自治体」継続調査。
2. 海外動向、大学院養成に関する調査研究と報告
3. SSW事業の動向調査とその分析検討
4. 学会ブックレット等の刊行

■ 研修委員会関係

- 2011年5月14日:福岡県・学校ソーシャルワーク研究会 第6回研究会
- 2011年7月2-3日:温泉に入って語り合いみんなで楽しもう in 仙台!
- 2011年7月15日:福岡県・学校ソーシャルワーク研究会 第7回研究会
- 2011年8月20日:2011年度日本学校ソーシャルワーク学会北海道地区研修会
- 2011年8月20日、9月3日、10月8日:2011年度 岩手県社会福祉士会 スクールソーシャルワーク基礎講座(共催)
- 2011年8月27日:スクールソーシャルワーク研修セミナー(福島県におけるスクールソーシャルワーカーの活動と学校支援)
- 2011年10月2日:2011年度香川スクールソーシャルワークセミナー
- 2011年11月19,20日:第6回日本学校ソーシャルワーク学会全国大会(福岡)
- 2011年12月3日:日本学校ソーシャルワーク学会東北地区大会2011
- 2012年1月21日:福岡県・学校ソーシャルワーク研究会 第8回研究会
- 2012年2月4日:日本学校ソーシャルワーク学会近畿地区研修会 セミナー「実践現場と協働して実施する、ソーシャルワーク評価」
- 2012年2月5,6日:日本学校ソーシャルワーク学会近畿地区研修会 国際セミナー「スクールソーシャルワーク実践効果とその課題」
- 2012年3月10日:2011年度東海北陸地区スクールソーシャルワーク研修会
- 2012年3月22日:シンポジウム「先進自治体の取り組みから何を学ぶか～富山県と神奈川県を取り組みを通して～」
- 2012年3月24日:北海道第4回スクールソーシャルワーカー研究会

■ 編集委員会関係

1. 学会誌『学校ソーシャルワーク研究』(第6号)を編集刊行。
2. 学会誌の第7号の募集、査読事務、刊行準備等
3. 「学会編テキスト」の販売促進。
4. 「International Network for School Social Work」のニューズレターへの協力
5. 『学会会報』20号～22号の発行
6. 学会ホームページの更新
7. 学会メール広場(メーリングの運営)
8. 日本学術会議との連携

■ 理事会関係

1. 2011年度第1回理事会2011.11.6(東京・八重洲口)
2. 2011年度第2回理事会2011.11.18(第6回大会時)
3. 2012年度第3回理事会2012.3.31(四国学院大学)
4. 日本社会福祉士会・社養協等の会議への出席

連絡先

日本学校ソーシャルワーク学会 事務局
960-1296 福島市金谷川1番地
福島大学大学院教育学研究科 鈴木庸裕研究室気付
TEL/FAX:024-548-8114
メール:nsuzuki@educ.fukushima-u.ac.jp
郵便振替:02230-7-67785